

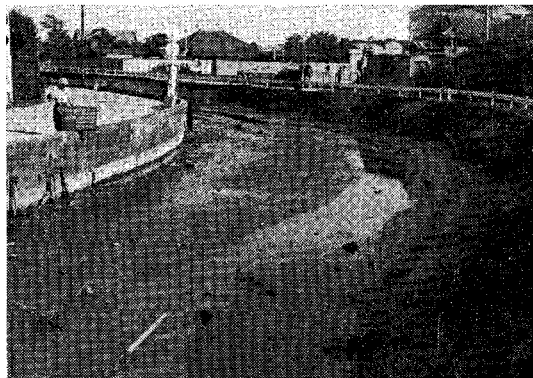
東京都江戸川区は、南は東京湾に面し、東は江戸川を境に千葉県と接する、人口 47 万人・行政区域 45 km<sup>2</sup> の特別区であり、目下昭和 55 年度 100% 普及をめどに都・区一体となって下水道工事を進めている。しかし、ここは合流式であるため順次排水機能を終える 440 km に及ぶ小河川の扱いが問題となり、「内河川整備計画」を策定するに至った。計画策定にあたって、私たちは次のような視点に立つことにした。① 過密化が進む都市では、道路も河川も単位時間あたりの量的処理が余儀なくも性急に追求された結果、多くのものが看過されることになり、道や川から人を遠ざけ隔絶するに至ったのではないか。② 鉄とコンクリートに象徴される生活環境のなかで水と緑の回復が叫ばれるのは都市の必須要件であるべき快適性・安全性・利便性がきわめて損われたからではないか。

そこで、本計画は以上のような認識を基本に当区の大半の地域が経年の地盤沈下のため外水位よりも低いという禍を転じ、31 路線・51 km の内河川に江戸川、中川等の良水を導入し、区内全域にわたって「水と緑の回復」を目ざそう

とするものである。古川親水河川工事はこのうち河川整備計画の一部であり、往時舟運河川であった幅員 6 ~ 14 m・延長 1200 m の古川は右上の写真に示すように排水路と化していたが流域を持たず導水が容易である点に着目し下水道普及前の昨年从去年にかけて右下の写真のように施工したものである。

中央に幅 2 m

・深さ 30 cm 程度の水路と散策道を設け、左右のり面にタブノキ、マテバシイ、サクラ、ツツジ、サツキ等 2800 本あまりの植樹を行い諸所に池、滝、落差、つり橋、めがね橋等を配した。工事完成後の各界各層からの反響は予想をは



施工前(上)と施工後(下)の古川親水河川工事下流部

るかに越えるものがあり、人びとがいかに自然の回復、ゆとりを渴望しているか、改めて痛感している今日このごろである。

(筆者・正会員 東京都江戸川区役所  
土木部 河川課長)

## 京成上野駅改良工事と自然環境保全

川本 昭雄

京成電鉄上野駅は昭和 8 年に完成し、当時としてはモダンな地下駅であった。昭和のはじめまで日暮里駅を起点としていた京成電鉄を、上野公園の地下まで延長する

計画が公園を管理していた東京市に提出されたとき、上野の森に対する影響をめぐって約 2 か年の論議がなされた記録がある。

今回、老朽化した京成上野駅を

現在の需要に応ぜられるよう改良する計画が公園占用という形で東京都に提出されたのは昭和 45 年 12 月であった。この計画は地下 1 層であった駅を地下 2 層(一部 3